

令和3年度 事業報告書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

前期に続き、新型コロナウイルス感染症による制約の多い1年でした。定期の理事会、評議員会をすべてオンラインで実施し、電話相談も時間を短縮しました。財政面では新たな試み、クラウドファンディングを中心とした寄付に加え、12月末には遺贈を受けることができました。これにより、一過性ではありますが収益が大きく改善しました。

■事業活動

11月～1月にかけて「認知症110番」存続に向けた募金活動を行い、530を越す方々、団体より829万2000円の寄付をいただきました。遺贈による寄付1250万円、日本財団による助成1040万円も含めて確保した剰余分1299万3000円のうち、電話相談事業に要するリース資産分を除いてすべて特定資産「電話相談事業積立資産」としております。寄付や助成をすべて電話相談事業に充当することを明確にするためです。

■電話相談「認知症110番」事業

コロナ禍の影響で4～10月、1月末～3月は開始時間を1時間遅らせ、11時からとしました。相談時間は合計で73時間の減となり、相談日（5時間/1日）ベースで換算すると約15日休業した格好です。その結果、相談件数は1135件にとどまりました。前期（4、5月休業、1～3月に1時間短縮）の1073件は上回ったものの、前々期比では190件減少しました。相談員の技能向上策として、専門医を講師に招いたオンライン勉強会を試みしました。対応可能な相談員も増えており、今後はオンラインの有効活用を考えています。

■シンポジウム事業

3月11日にオンラインの公開講座「いきいき健脳をつくる」を、一般社団法人「生涯健康社会推進機構」と共催しました。新井平伊会長らの講演に加え、認知症予防に資する体操などを視聴者が画面越しに体験できるようにしました。700人近い人が申し込み、参加者の9割以上が「満足」と答えるなど盛況でした。また、2月7日には「毎日がアルツハイマー」シリーズの映画監督、関口祐加さんのオンライン講演会を開催しました。

■調査・研究事業

コロナ禍もあり、断念しました。

■財団報「新時代」の発行

127～132号の6回発行しました。新連載、繁田雅弘・東京慈恵会医科大教授の「認知症の人の声を聴いていますか」が多くの読者の高評価を受けています。

■内部運営

令和3年度に実施した主な会議は▽5月13日の決算理事会▽6月21日の定期評議員会▽3月8日の予算理事会です。いずれもオンラインで開催しました。